

『悔いなき熱情』

著：暁 由宇

ill：minato.Bob

熟睡していたのだろう。

意識が浮上しかけたとき、ふと違和感を覚えた。完全に覚醒する前に、昨夜の記憶が蘇った。そうだ、外泊したのだ、と。

「秘書くん？」

かすれるような声に、寛也の意識ははっきりと目覚めた。

「荒井川さん」

目を開くと、荒井川の顔が目の前にあった。起き上がろうとした寛也を片手で制して、荒井川は

「すまん、俺、潰れたみたいだ」

そう言って、頭を下げた。

「いえ、すみません。ベッド、半分借りてます」

いや、とか何とか言いながら、荒井川は足元から寛也をまたいで、ベッドから下りた。

「わりい、寝ててくれ」

そう言い置いて部屋を出ていく。そのまま寛也はまた眠ってしまったらしい。

しばらくしてから髪に触れてくる指の感触に、眠りから呼び覚まされた。が、はっきりと覚醒はしていない。

まどろみながら、髪を梳く手を感じていた。

子どものころ親にあやされていた記憶が、はっきりと残っているわけではないが、なんとなく、その記憶を呼び覚まされるようで、寛也は安堵を覚えた。

それが、荒井川の手だということは、理解していた。

ただ、なぜ彼がそんなことをしているのかは、わからなかった。わからなかったが、嫌悪感はなかった。

「すまない、俺は」

荒井川の声が聞こえた。やはり、苦しそうだった。

荒井川が苦しんでいる、なぜだかはわからない、そのことが寛也を苛立たせた。

だが、半分眠っている寛也には、それを伝えることができなかった。代わりに髪を梳く手を、掴んだ。一瞬、掴まれた手がひるんだのがわかったが、寛也はそのままぐいと引き寄せた。

「おい」

荒井川の声が聞こえた。

ああ、もう、うるさい、と思いながら、寛也は荒井川の背を抱き寄せた。

その背を、ポンポンと叩いてやる。

荒井川の重さを感じながら、寛也はまたまどろみ始めた。

「って、寝てるのかよ」

小さく荒井川が呟くのが聞こえた。

「襲うぞ」

低い声だった。脅しとも思えなかったが、寛也にはどうでもよかった。

あなたが苦しむことはない、と、ただそれだけを伝えたかった。

荒井川の両腕が、寛也の背に回された。

「悪い」と謝る声も聞こえた。

なぜ、彼が謝っているのか釈然としないまま、寛也は半分眠り、半分起きているような状態で、荒井川の背を抱いていた。

「だから、寝てるんだよな」

荒井川の声は苛立っていた。いや、起きているよ、と答えつつもりだが、声にはなっていなかったようだ。

「どうしたもんか、これ」

困惑した荒井川の声が聞こえ、密着した体の下肢に、違和感が生じた。

と、突然、意識が浮上した。はっきりと目覚めたものの、逆にどうしていいのか、寛也にはわからなくなる。

目覚めたことを伝え、拒めばいいのか。

いや、それしかないだろう、と思うのに、体は動かなかった。

はっきりと覚醒してみれば、自分は荒井川を抱きしめている状態だ。

まあ、荒井川の腕も寛也の背に回されていたので、正確には抱き合っている、といったほうがいいだろう。

このまま、寝たふりをしていたほうがいいのかもわからない。  
「なあ、秘書くんよ。ほんと、罪作りだな、無意識とはいえ」  
荒井川の溜息のような呟きが、耳元に聞こえ、彼が寛也の肩先に顔を埋めるのがわかった。  
「ああ、くっそ。こんな予定じゃなかったのに」  
どうしよう、と寛也は思う。なんとなく、わかってしまった。いや、勘違いかもしれないが、でも、もしかしたら、この少し年上の新聞記者は、俺を……。  
確かめたほうがいいのか、いや、それでは彼が驚くだろう。  
寛也の逡巡をよそに、荒井川は寛也を抱きしめる腕に力をこめた。  
彼の葛藤が伝わってくる。  
彼の熱に煽られるように、寛也の内に、小さな火種がともる。ああ、これを悟られたら、きっと引き返せない、と寛也は直観した。  
「荒井川さん」  
声をかけると、がばっと荒井川が寛也から離れた。  
「あ、すまん、俺、寝ぼけて」  
「寝ぼけた人が、そんな行動とりません、って」  
寛也は荒井川の腕を掴んだ。  
荒井川の垂れた目が、見開かれた。  
うん、可愛い、と寛也は思った。  
「僕を、欲しい。違いますか？」  
荒井川は、はっと笑った。  
笑いながら、寛也に掴まれていないほうの手が、自分の側頭部を掻き回していた。  
「まいった。直球だ」  
了解を求める声はなかった。引き寄せ合う腕が、答えだと寛也は思った。

本文より抜粋

製品版はこちらでお楽しみください。

**Kindle**

<http://www.amazon.co.jp/dp/B01BSAX87M/>

**Renta!**

<http://renta.papy.co.jp/renta/sc/frm/item/96683/>

作品の詳細や最新情報はダリア公式サイト「ダリアカフェ」をご覧ください。

ダリア公式サイト「ダリアカフェ」

<http://www.fwinc.jp/daria/>